

2008年2月16日

「核燃料サイクルにもの申す！」 河野太郎代議士と水口憲哉先生を迎えて再処理工場問題を考えるフォーラムが開催されました。



2月16日、青葉区本町のハーネル仙台で「核燃料サイクル政策にもの申す！河野太郎代議士と水口憲哉先生を迎えて再処理工場問題を考えるフォーラム」が開催されました。このフォーラムを主催したのは、あいコープみやぎ、わかめの会・風の会など市民団体、労組、個人などが集まった「六ヶ所再処理工場稼働阻止みやぎネットワーク」です。会場は、あいコープ組合員、みやぎネット各団体のメンバー、漁協関係者、サーファー、あいコープ提携生産者、それに新聞やネットをみて集まった多くの市民が加わり、二百名を超える参加者でいっぱいになりました。



あいコープみやぎ・吉武理事長の挨拶



河野太郎代議士の講演

河野太郎代議士は、核燃料サイクルとは何か？から説き起こし、プルトニウムの使い道がない今、再処理を始める理由はまったくないこと。にもかかわらず原発の中に溜まり続ける使用済核燃料を六ヶ所に貯蔵するための口実として無理矢理稼働させようとしていることを明快に説き、会場はその説得力ある話に引き付けられました。また「日本のマスコミはスポンサーに“買収”されていてこの問題を伝えない」と指摘。市民が口コミでこの問題を知らせ、政治家を動かすことが大事と強調されました。

続いて水口憲哉先生(東京海洋大学名誉教授)は「放射能を海に捨てないで」という思いが青森 岩手 宮城へと広がり、全国に波及して再処理反対の運動が盛り上がっていることを、新聞記事などを使ってわかりやすくお話していただきました。「飛び散った種が芽生え育ち林になるように、仕事と暮らしの場で泡がぶくぶく煮立つように、事実を知らず気付いていない人々に知らせることをこれからも続ける」ことが大事と強調されました。



発言する高橋徳治商店・高橋社長

お二人の講演を受けての質疑応答は、地元選出の国会議員や県議、県内の漁民、サーファー、あいコープ組合員、提携生産者など多くの方々からの意見・質問がありました。どの方の発言からも、それぞれの場所でこの問題に取り組む熱意が感じられました。次々に手が上がって議論は白熱し、予定時間を40分もオーバーするほどでした。

仙台で「再処理工場」をテーマにしたフォーラムが二百名の参加者を集めたことは、この問題が確実に人々の間に広がり、これまでよりひとまわり大きなムーヴメントになりつつあることを感じさせました。今後さらに「東北・三陸の豊かな自然・食べもの・生命を守りたい」という多くの人々の思いを集めて、宮城の地から再処理を止める具体的な影響力を発揮していけたらと思います。「まだ間に合う」 - 多くの人々にそう感じさせ、勇気を与えるフォーラムでした。